

令和3年度第1回 横浜健康経営認証委員会 会議録	
日 時	令和4年1月19日（水）午前9時30分～午前11時45分
開催場所	市庁舎18階 共用会議室 なみき16
出席者	<p>横浜健康経営認証委員会委員</p> <p><出席>7名</p> <p>大野 多賀子 氏（株式会社 日本政策投資銀行 サステナブルソリューション部 調査役）</p> <p>小副川 忠明 氏（横浜商工会議所 中小企業相談部 経営支援課 課長）</p> <p>川北 彰子 氏（公益財団法人 横浜企業経営支援財団 マネージャー（経営支援部長））</p> <p>北田 昇平 氏（花王株式会社 人材開発部門 健康開発推進部 全社産業医）</p> <p>斎藤 照代 氏（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科 教授）</p> <p>田中 正行 氏（全国健康保険協会神奈川支部 企画総務部長）</p> <p>渡辺 哲 氏（独立行政法人 労働者健康安全機構 神奈川産業保健総合支援センター 所長）</p>
開催形態	公開 3 審査については非公開（傍聴人2名）
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長の選任 2 横浜健康経営認証制度について 3 審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認証区分決定の流れ及び審査基準について (2) 審査 4 その他
議事概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長の選任 横浜健康経営認証委員会（部会）設置要綱第5条第1項に基づき、委員の互選により、斎藤委員を委員長に選任した。 2 横浜健康経営認証制度について 横浜健康経営認証制度の概要及び今後のスケジュールについて事務局より説明した。 3 審査 横浜健康経営認証委員会（部会）設置要綱第7条に基づき、審査に係る議事については、非公開とした。 事務局から応募事業所について説明を行い、各委員による議論により認証区分を審査した。

	<p>4 その他</p> <p>令和4年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について事務局より説明した。</p>
資料	<p>資料1 「横浜健康経営認証」事業実施要綱</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱</p> <p>資料3 横浜健康経営認証委員会（部会）設置要綱</p> <p>資料4 令和3年度横浜健康経営認証委員会委員名簿</p> <p>資料5 横浜健康経営認証制度について</p> <p>資料11 令和4年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について</p> <p>※非公開の「議事3 審査」に係る資料は除く</p>
主な意見	<p><議事4 その他></p> <p>（事務局）</p> <p>令和4年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について説明する。</p> <p>（斎藤委員長）</p> <p>応募数が増える中では、それに合ったやり方としていくことは当然。また、時代から、申込方法にオンラインを導入することも当然。</p> <p>（北田委員）</p> <p>クラスAAにおいて、有所見者割合の把握方法として、健診結果だけではなく、アンケート調査でも可能とアナウンスするとのことだが、社内で「あなたは血圧で有所見になっていますか？」「はい」といった形でアンケートをとるとのことか。それは現実的な方法ではないと思う。</p> <p>→（斎藤委員長）</p> <p>アンケートによる把握もいいですよということは前面には出さない方がいいと思う。</p> <p>（斎藤委員長）</p> <p>認証基準は変えないということだが、新型コロナウイルス感染症の発生により沖縄県が大変になっている状況を見ると、できれば横浜健康経営認証の項目にBCPの視点は入れた方がいいと思う。平時からBCPを考えておくことが大切。とはいえ、現時点でBCPを立てられている会社は10数%なので、BCPの作り方研修会を横浜市主催でやってみてはどうか。そうするとBCPの普及にも貢献できると思う。</p>

(斎藤委員長)

神奈川県は受動喫煙に関する条例を日本で初めて制定していて、受動喫煙対策に熱心な県というイメージがある。健康増進法が改正されたこともあり、国の認定基準を見ても、高いレベルの受動喫煙対策を行っている事業所を評価するという基準にしている。受動喫煙対策について、評価の重みづけをしてもいいのではないか。煙のない環境になればいい。元を断つというのが産業保健の基本原則だと思う。